

改良型高力ボルトの施工試験見学会が新聞に掲載されました

11月30日、12月2日に千葉工場において実施した「改良型高力ボルト自動締め付け管理システム」の施工試験見学会が日刊建設通信新聞（2022年12月7日）に掲載されました。

弊社はこれからも地球環境問題や長時間労働の改善に努めて参ります。



締め付け効率化と品質の安定化実現
宮地エンジンの環境配慮型高力ボルト自動締め付け管理システムは2日、同社の千葉工場で環境配慮型高力ボルト自動締め付け管理システムの施工試験見学会を開いた。写真。締め付け作業の効率化と品質管理の自動化により、材料削減、施工の省力化・省人化、品質の安定化を実現するシステムで、見学会には発注者などが参加した。

環境配慮型高力ボルトは、締め付けて固定したり、緩めて外したりする箇所の締緩（ていかん）機構により、ボルト交換時などの作業性を高める。ボルト軸の先端にあるピンテールがなく、ピンテール製造時の原料やエネルギーを削減できる。

今回はトルクコントロールシステムも導入。ボルトの締め付けデータを紙のチェックシートの削減、作業状況の見える化によるヒューマンエラーの防止、締め付け精度の向上を図る。

開会に当たり、上原正社長は「地球環境問題への対応が喫緊の課題となる。加えて、建設業の慢性的な長時間労働の改善は担い手確保につながり、施工現場の省人化・省力化の技術開発が強く求められる」と開発の背景を説明した上で、「新しい高力ボルトと締め付け管理システムについて忌憚（きたん）のない意見をいただきたい」と述べた。

続いて、奥村恭司技術本部長が開発の経緯を、山口隆司大阪公立大学院教授が技術の詳細を説明した。

